HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	巻頭言
Author(s)	芒亭
Citation	各務時報, 88
Issue Date	1935-12-15
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77671
Type	column
File Information	A018_02_03all_Part25.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

巻頭言

ここに集めたる一籠の想華。吾等其華麗を誇らんとはせず。吾等其幽遠を誇るにも非ず。吾等は自己の理想の高からざるを知り、自己の情熱の足らざるを知り、自己の論理の及ばざるを知る。されば吾等は此花籠を錦上に飾り一世の愛玩に供せんとはせず。

吾等は自己の人生の行路に、例へばふと通り過ぎる一基の塚の傍に、殘し行く栞とせんのみ。而かも後より來る人々の爲めの東道のしるべとするにも非ず。世を益し人を導くに及びがたきを知ればなり。只管志すところは、自ら顧みて辿り來し道程の遙けきを知り、遠き想ひを誠むるよすがにとてなり。

されば、此一籠の想華、吾等自らにはこよなくも貴くして、かけがへもあらぬ吾等自らのうつり香の其處にただようなり。

吾等は人に示す可き誇りの空しきを嘆かず、自らに示す可き些さかの矜りを有すればなり。昭和十年冬淺き日吾等此花籠を殘す。(芒亭)